AGRAS MG-1S

免責事項と安全に関する ガイドライン

V1.0 2017.03

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードで検索して、トピックを見つけます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書を読んでいる場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始します。

任意のトピックへの移動

目次のトピックの全リストが表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに進みます。

本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

目次

安全についての概要 4
注意 7
用語集 7
フライト前チェックリスト 7
免責事項および警告 8
準拠情報 9
FCC 警告メッセージ 9
KCC 警告メッセージ 9
EU 準拠声明 10
使用を開始する前に 11
各部部品 11
純正部品と機能部品について 11
送信機 11
機体 12
バッテリー 12
ランディングギア 12
コンパス 12
推進システム 13
噴霧システム 14
レーダー地形フォローシステム 14
データ保護モジュール 15
ファームウェア 15
DJI MG アプリ 15
USB スティック 16
本製品の手入れ 16
保管と輸送 16
メンテナンスと保管 16
フライトの必須条件 17
気象条件と周辺環境 17
フライトコントローラーおよび通信との干渉 17
責任ある機体操作 18
フライトモード、操作モード、機能および注意事項 18
フライトモード 18
操作モード 19
フェイルセーフ と Return-to-Home 19
低バッテリー 19
タンクの液体切れ 20
規制順守と飛行禁止区域 20
規制 20
飛行禁止区域 21

© 2017 DJI All Rights Reserved.

安全についての概要

AGRAS™ MG-1S（「MG-1S」と略す）は玩具ではありませんので、18 歳未満の子供の利用を前提としていません。

「安全についての概要」では、安全に関するヒントの概要のみを紹介しています。本書およびユーザーマニュアルのセクションにすべて目を通し、理解してください。

1. 農薬の使用

- 農薬には毒性があり、人間の健康に深刻な危険をもたらすことがあります。農薬の使用に当たっては、仕様書の指示に厳密に従ってください。
- 注いだり混合するときに液がはね散ったりあふれたりして、機器に農薬が残留すると、**皮膚に炎症を起すことがあります**。混合した後は、機器を必ず洗浄してください。
- 農薬の**混合には**ストレーナが詰まらないよう、**上水を**お使いください。 **機器を使用する前に詰まりがあれば、**洗浄して除去してください。
- 防護性のある衣服を**着用して、**農薬が直接体に触れないようにしてください。農薬を扱った後は、必ず**手と皮膚を流水で洗ってください**。農薬を使用した後は、**機体**および**送信機**をきれいにしてください。
- 農薬を効果的に使うには、**濃度、噴霧速度、噴霧距離、飛行速度、風速、風向が影響します**。農薬の使用時にはすべての要因を考慮して、周囲の人、動物および環境の安全を決して損なわないようにしてください。
- **河川や飲料水源を**絶対に汚染しないでください。
- 粉末状の農薬はできるかぎり使用しないでください。噴霧システムの耐用年数が短くなる可能性があります。

2. 環境に関する考慮事項

- 必ず**建物などの障害物がない**場所で飛行させてください。
- **大勢の人が集まっている場所の上空やその付近では飛行させないでください。**
- **50m** を超える高度での飛行は避けてください。
- 海抜 **2,000m** 以上の高度を飛行する際には、十分に注意してください。
- 気温 **0 ～ 40℃**の穏やかな気象条件のときに飛行させてください。
- **屋内で機体の部品を操作しないでください。**

3. フライト前チェックリスト

- 送信機と機体のバッテリーが**完全に充電されている。**
- **ランディングギアと噴霧タンク**が適切な位置にしっかりと取り付けられている。
- すべての**ねじが**しっかりと**固定されている。**
- プロペラとフレームアームが**展開され**、アームスリーブがしっかりと固定されている。
- プロペラの**状態が良好で、しっかりと固定されている。**
- モーターに**問題がない。**
- 噴霧システムに詰まりがなく、適切に作動する。
- **コンパスが飛行場所ごとに**校正されている。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

4. 動作

- **回転中のプロペラとモーター**から離れてください。
- 離陸時の重量は **24.8 kg を超えないようにしてください**（海抜 0m からの離陸時）。
- 常に、**視野内（VLOS）**に機体を捉えておいてください。
- 緊急事態でないかぎり、飛行している間はコンビネーション・スティック・コマンド（CSC）またはその他の方法を使用してモーターを停止しないでください。
- フライト中は**電話の着信に応答しないでください**。
- **飲酒**または**服薬時**には、飛行**させないでください**。
- Return-to-Home※手順を実行中は、高度を調整して、**障害物を避ける**ことができます。
- 低バッテリー警告が表示された場合には、**安全な場所**に着陸させてください。
- 着陸後、まずモーターを停止させ、次に機体をオフにしてから、送信機をオフにしてください。
- 常に機体の全制御を維持し、DJI MG アプリに頼らないでください。常に機体を視野内に捉え、フライトを目視で観察してください。ご自身の適切な裁量により機体を操作し、適時に手動で障害物を避けてください。フライト前に適切なフェールセーフ高度および Return-to-Home※高度を設定しておくことが重要です。

※「Return-to-Home」は（一社）農林水産航空協会の指針により作業中には使用できません。

5. メンテナンスと保管

- **欠けたり、損傷したり、古くなったプロペラは使用しないでください**。
- **運搬中**、または使用しないときには、ランディングギアを損傷しないように噴霧タンクを取り外すか、空にしてください。
- 推奨保管環境温度（**噴霧タンクが空の場合**）：**20 ～ 40℃**。
- **噴霧後**、速やかに機体を洗浄してください。
- **100 回または 20 時間**以上飛行するごとに、機体を点検してください。
- メンテナンスガイドラインの詳細については、本文書の「本製品の手入れ」のセクションを参照してください。

6. 現地法および規制の順守

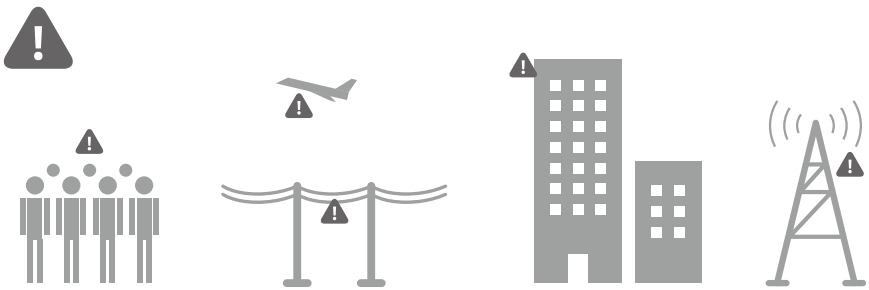
- **飛行禁止区域では飛行**させないでください。飛行禁止区域の一覧は、以下のサイトでご覧いただけます。

  http://www.dji.com/flysafe/no-fly

- DJI が指定する飛行禁止区域は、**現地当局の規制やその場での適切な判断に優先するものではありません**。
- **救助チームが航空機を使って活動中の空域では、飛行を避けてください**。

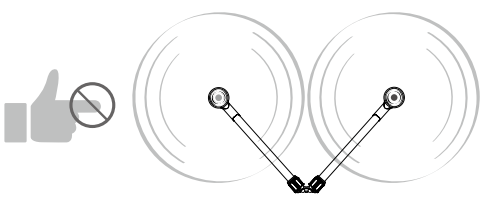
© 2017 DJI All Rights Reserved.

屋外での飛行　コンパスの校正　強い GPS 信号　VLOS　50m 未満を飛行



障害物、人混み、高電圧線、水域の近くで飛行させないでください。
電線や基地局などの強い電磁波域の周辺では、機内搭載のコンパス性能が劣化することがあるため、飛行させないでください。

雨（12 時間雨量が 25mm/0.98 インチを超える場合）、強風（8m/s または 17mph（28 kph）超）、霧、雪、雷などの悪天候時に機体を使用しないでください。



回転中のプロペラやモーターから離れてください。

飛行禁止区域

詳細については、以下をご覧ください。
http://www.dji.com/flysafe/no-fly

© 2017 DJI All Rights Reserved.

注意

手順書および付属書はすべて、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD 独自の裁量で変更されることがあります。最新の製品情報については、http://www.dji.com にアクセスして、MG-1S 製品ページをクリックしてご覧ください。

用語集

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示しています。

注記 注記：手順を正しく実行しないと、物的な損傷および人的な負傷の可能性が生じます。
注意 注意：手順を正しく実行しないと、物的な損傷および人的な重度の負傷の可能性が生じます。
警告 警告：手順を正しく実行しないと、物的損害、巻き添え事故、および人的な重度の負傷の可能性が生じるか、または重度の負傷を負う可能性がより高まります。

⚠ 警 告

ユーザーマニュアル全文をよく読んで、機能に習熟してから、本製品を操作してください。製品を操作するに当たっては、責任を持って安全を確保してください。さもないと、本製品や個人の財産に損害が発生したり、重傷を負うおそれがあります。

本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識を持った操作とともに、基本的な機械知識が求められます。互換性のないパーツを使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用を開始する前に、本ユーザーマニュアルに記載する手順と警告をすべて読み、これに従うことが重要です。

推奨年齢：18 歳未満は対象外です。これは玩具ではありません。

フライト前チェックリスト

1. 状態の良い純正部品のみを使用している。
2. 送信機と機体のバッテリーが完全に充電されている。
3. プロペラは良好な状態で、モーターに正しくしっかりと取り付けられている。
4. プロペラとフレームアームが展開され、アームスリーブがしっかりと固定されている。
5. モータが始動し、正常に機能している。
6. ランディングギアと噴霧タンクが適切な位置にしっかりと取り付けられている。
7. すべてのねじがしっかりと固定されている。
8. すべての部品がしっかりと取り付けられ、ケーブルが正しく、しっかりと接続されている。
9. コンパスが校正済みである。
10. 機体のファームウェアと DJI MG アプリが最新バージョンにアップグレードされている。
11. 飛行する地域が飛行禁止区域外で、フライト条件が飛行に好適である。
12. 飲酒時、服薬時など、認知能力が損なわれる可能性のある状態では、飛行を行わない。
13. 選択したフライトモードに習熟し、すべての安全機能と警告を理解している。
14. 現地規制をすべて順守し、認可を適切に取得し、リスクを理解している。確認事項:フライト規制の順守は、ユーザーの責任となります。
15. DJI MG アプリが、機体の操作をアシストできるように適切に起動していることを確認する。DJI MG アプリによって記録され送信機に保存されたフライトデータがない場合、機体の紛失など特定の状況下では、DJI™ はアフターセールスサポートの提供や、責任を負うことができない場合があります。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

免責事項および警告

本製品は玩具ではなく、18 歳未満の方の利用は前提としていません。MG-1S は子供の手の届かない場所に保管してください。また、子供がいるところでは機体を操作しないでください。
本製品は、農地、森林、果樹園などの農業用途のみを対象としたマルチコプター飛行プラットフォームです。以下に従って、良好な状態で作動すれば、簡単に飛行させることができます。最新の注意事項と警告については、http://www.dji.com をご覧ください。安全な飛行と法令順守の詳細については、http://knowbeforeyoufly.org/ をご覧ください。

本書では、ユーザーの安全と法的権利と責任に関する情報を取り扱っています。ご使用の前に、この文書のすべての内容をよくお読み頂き、確実に適切な設定ができるようにしてください。本書の手順と警告を正しく理解して実行しない場合、本製品の損失、ユーザーの重傷、機体の損傷を招くおそれがあります。

本製品を使用することにより、本書の免責事項およびユーザーマニュアルをよく読み、記載されている条件を理解し、順守することに同意したとみなされます。DJI 限定保証（http://www.dji.com/service に掲載されているポリシー）に明示的な規定がない限り、製品およびすべての資料、製品を通して得られるコンテンツは「現状のまま」および「提供されているまま」で提供され、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も条件も伴いません。明示、黙示を問わず、DJI 限定保証に明示的に規定がない限り、製品、製品アクセサリー、すべての資料に関し、DJI は以下を含む、いかなる種類の保証も一切行いません。（A）商品性、特定目的の適切性、権限、平和享有権、非侵害に対する黙示的保証、および（B）取引の過程、使用、商習慣から生ずる保証。DJI 限定保証に明示的な規定がない限り、製品、製品アクセサリー、製品の一部、資料が、中断のないこと、安全で、エラー、ウイルス、その他有害なコンポーネントがないことを DJI は保証しません。また、それらの問題の修正も保証しません。

本規約に明示的な記載がない限り、口頭であれ書面であれ、製品、製品アクセサリー、資料から得られる助言や情報により、DJI または製品に関する保証は発生しません。製品、製品アクセサリー、資料の使用またはアクセスに起因するあらゆる損害に対するすべてのリスクは、すべてお客様が負うものとします。お客様の裁量とリスクにおいて本製品を使用し、けが、死亡、お客様の財産への損害（本製品と接続して使用したコンピュータシステム、モバイルデバイス、DJI ハードウェアを含む）、第三者の財産への損害、本製品使用による、あるいは使用不能によるデータの損失に対して、お客様が単独で責任を負うことについてお客様は理解し、合意するものとします。

保証の免責を認めていない司法管轄区もあり、司法管轄区によっては別の権利を有する場合もあります。

本製品の使用により直接または間接的に発生する損害、傷害に対して、DJI は一切責任を負いません。ユーザーは、本安全ガイドラインの規定（ただしこれに限定しない）をはじめとする、安全で合法的な使用を順守するものとします。

DJI は、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD.（略して「DJI」）およびその関連会社の商標です。本書に記載されている製品、ブランドなどの名称は、その所有者である各社の商標または登録商標です。

データの保管と使用法

当社の製品、モバイルアプリ、その他のソフトウェアの使用中、フライトテレメトリデータ（速度、高度、バッテリー寿命、ジンバルとカメラに関する情報）と操作記録など、製品の使用と操作に関するデータを DJI が指定するサーバーに自動または手動でアップロードして、保存することができます。本製品の内蔵ストレージデバイスにも、フライトテレメトリデータなどの各種データを保存できます。内蔵ストレージデバイスから手動で情報を転送して、フライトテレメトリデータなどのデータを当社サーバーに保存することもできます。

当社に自動または手動でアップロードされる情報は、ユーザー名などの個人情報が含まれ、その情報の保管時に、このようなアップロードされた情報への関連付け、識別のための使用、タグ付けが行われることがあります。ユーザー名などの個人データの取り扱いについては、当社のプライバシーポリシーに別途記載があります（http://www.dji.com/policy）。本製品や当社が配布するモバイルアプリなどのソフトウェアを使用する時点、または当社サーバーに手動でデータをアップロードする時点で、以下の項目に同意したとみなされます。

- 当社ストレージにアップロードまたは提供したフライトテレメトリデータやその他のデータ（ユーザー名と組み合わせたもの）を当社内で保管する

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

- サポートやサービス提供の一環として、製品改善の目的でアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を当社で利用する
- 当社代理人や請負業者にアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示して、そのデータを当社の代理または当社との関係に関連して、利用する
- 法律の定めるところにより（公共の安全、政策）、または当社事業資産の譲渡に関連して、あるいは当社の権利や財産を保護するため、データ共有が必要と誠実に判断した場合、アップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示する

準拠情報

FCC 警告メッセージ

Any changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

FCC Radiation Exposure Statement:
This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance 20cm between the radiator & your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:
- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

KCC 警告メッセージ

"해당무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다 ."
"해당 무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있음"
인증받은자의 상호 : SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD

제품명 / 모델명 : AGRAS MG-1S / 3W-DJI-8-10-015
제조자 및 제조국가 : SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD
제조년월 : 2017.02
인증번호 : MSIP-CRM-dji-AG405
해당 무선설비는 전파혼신 가능 성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없음

© 2017 DJI All Rights Reserved.

EU 準拠声明

SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD. hereby declares that this device is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of the R&TTE Directive.
A copy of the EU Declaration of Conformity is available online at www.dji.com/euro-compliance

CE 1313

EU contact address: DJI GmbH, Industrie Strasse. 12, 97618, Niederlauer, Germany

DJI は、この免責事項と安全ガイドラインを更新する権利を保持します。定期的に http://www.dji.com にアクセスし、また電子メールをチェックして、最新版をご確認ください。この免責事項は、複数の言語でご提供しています。言語版によって違いがある場合には、英語版が優先されます。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

使用を開始する前に

機体を安全に操作し、活用いただくため、以下の資料をご用意しています。
同梱物
免責事項と安全に関するガイドライン
クイックスタートガイド
ユーザーマニュアル

同梱の資料に記載される部品をすべて確認して、フライト前に**免責事項と安全ガイドライン**を読みます。組み立てを完了し、**クイックスタートガイド**と DJI 公式ウェブサイト（http://www.dji.com）のチュートリアルビデオを利用して、基本操作を学習します。詳細については、DJI 公式ウェブサイトの**ユーザーマニュアル**を参照してください。フライト前に、各部の機能、フライトの必須条件、主な緊急警告機能／システム、政府所管官庁の規制をすべて十分に理解しておくようにしてください。本製品の組み立て、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJI または DJI 正規販売店にお問い合わせください。

各部部品

純正部品と機能部品について

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **必ず DJI の純正部品または DJI が認定する部品をお使いください。非正規の部品や DJI 認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性を損なうおそれがあります。**
2. **機体やパーツ内に異物（水、オイル、土、砂など）がないか確認します。**
3. **機体と送信機、ランディングギア、コンパス、推進システム、レーダー地形フォローシステム、噴霧システムなど（ただし、これらに限定しない）のコンポーネントがすべて良好に作動し、損傷がなく、十分に機能するか確認します。パーツの機能を確実に維持する方法の詳細については、本書の他のセクションを参照してください。**

送信機

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **送信機のポートは、仕様に厳密に従って使用してください。**

注 記

1. 送信機が完全に充電されているか、必ず確認してから、フライトしてください。
2. 送信機の電源がオンの状態で 5 分間操作されないと、アラートが鳴ります。6 分経過すると、自動的に電源がオフになります。スティックを動かすか、他の操作をすると、アラートは止まります。
3. 送信機のアンテナを展開し、最適な伝送品質を達成できるよう、正しい位置に調整します。
4. 送信機に損傷があれば、修理するか、交換します。送信機のアンテナに損傷があると、性能が大幅に低下します。
5. 交換用送信機を機体に取り付けます。徹底的にテストして、伝送距離 300m に達すると判断した場合のみ、連結が安全とみなされます。詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。
6. 送信機の GPS を適切に機能させるためには、DJI ロゴが上向きで、送信機の付近に金属がないことを確認してください。
7. バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 ヵ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

機体

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **機体にあるポートは、仕様に厳密に従って使用してください。**
2. **機体のポートをショートさせないでください。**
3. **機体の中央にある GPS モジュールを塞がないでください。塞いでしまうと、GPS 信号の強度が低下します。**

バッテリー

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **DJI が指定するバッテリーのみを使用してください。**
2. **機体の電圧は 50.4V に達することがあります。バッテリーの安全ガイドラインを読んで、バッテリー取り扱い時に必要な安全上の注意を守って、使用者の安全を確保してください。**

ランディングギア

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **ランディングギアの脚部は左右入れ替えできません。コンパスケーブルが付いているランディングギアの脚部を必ず機体の右側（後部から見て）に取り付けてください。**
2. **2 本のコンパスケーブルをランディングギアの取り付け部に接続して、ランディングギアの右側の脚部を取り付ける前に、ケーブルプロテクタを取り付けます。ランディングギアの脚部を取り付け／取り外しする際には、コンパスケーブルやコンパスプロテクタを損傷しないよう注意してください。**
3. **ランディングギアを取り付ける際に、スレッドロッカーを塗布します。飛行前に、スレッドロッカーが乾いて、固まっているか確認します。**

コンパス

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **2 本のコンパスケーブルをランディングギアの取り付け部に接続して、ランディングギアの右側の脚部を取り付ける前に、ケーブルプロテクタを取り付けます。ランディングギアの脚部を取り付け／取り外しする際には、コンパスケーブルやコンパスプロテクタを損傷しないよう注意してください。コンパスケーブルに摩耗や損傷があると、重大な事故を引き起こすおそれがあります。**

注 意

予想される重傷や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に明らかなドリフトが発生した場合には、すぐに着陸させてください。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

注 記

1. フライト前に、必ずコンパスを校正してください。適切に校正しないと、フライト性能が低下したり、墜落するおそれがあります。
2. 磁性干渉が強い場所では、コンパスの校正を実施しないでください。磁性干渉の強い場所には、巨大な金属製の物体がある場所、立体駐車場、地下の鋼鉄補強材、橋下などがあります。
3. コンパスの校正時には、鍵やスマートフォンなどの強磁性物質は持たないでください。
4. 屋内から屋外に移動した際には、必ずコンパスを校正してください。
5. 機体ステータスインジケータが赤色に点滅している場合、コンパスの校正に失敗しています。校正をやり直してください。
6. 正常に校正した後に機体を地面に置くと、コンパスに異常が発生することがあります。これは、地下の磁性干渉が原因です。機体を別の場所に移動して、再度校正してください。
7. 以下の場合には、コンパスを再度校正してください。
   a. コンパスデータが異常で、機体ステータスインジケータが赤色と黄色に交互に点滅する場合。
   b. 新しい場所で飛行する場合、あるいは先回フライトとは別の場所で飛行する場合。
   c. 機体の機械構成が改変されている場合（コンパスの取り付け位置が変わった場合など）。
   d. 機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に明らかなドリフトが発生した場合。

推進システム

⚠ 警告

回転中のプロペラとモーターにより、操縦者や周囲の人が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

プロペラ

1. **欠けたり、損傷したり、古くなったプロペラは使用しないでください。**
2. **必ず機体の電源をオフにしてから、プロペラに触れてください。**
3. **プロペラを取り付ける、または取り外す際には、プロペラの鋭い先端に気をつけてください。プロペラに触れる際には、手袋を着用するなどの保護対策を講じてください。**
4. **飛行前に、プロペラが展開されており、しっかりと固定されているか確認してください。**
5. **プロペラを取り付けた状態で、付近に他の人や動物がいる場合には、モーターの電源をオンにしないでください。**

モーター

1. **モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。**
2. **モーターの構造を改造しないでください。**
3. **フライト後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。**

注 意

予想される重傷や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. モーターの通気孔を塞がないでください。

注 記

1. モーターにほこりが付かないようにしてください。
2. モーターが動かず、自由に回転しない場合は、CSC（コンビネーション・スティック・コマンド）を実行して、モーターを緊急停止します。
3. モーターの電源をオンにして、動作音に異常がないことを確認してください。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

噴霧システム

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

農薬の使用

1. **農薬には毒性があり、人間の健康に深刻な危険をもたらすことがあります。農薬の使用に当たっては、仕様書の指示に厳密に従ってください。**
2. **注いだり混合したりするときに液がはね散ったりあふれたりして、機器に農薬が残留すると、皮膚に炎症を起こすことがあります。混合した後は、機器を必ず洗浄してください。**
3. **農薬の混合にはストレーナが詰まらないよう、上水をお使いください。機器を使用する前に詰まりがあれば、洗浄して除去してください。**
4. **防護性のある衣服を着用して、農薬が直接体に触れないようにしてください。農薬を扱った後は、必ず手と皮膚を流水で洗ってください。農薬を使用した後は、機体および送信機をきれいにしてください。**
5. **農薬の効果的な使用は、農薬の密度、噴霧量、噴霧距離、機体速度、風速、および風向によって左右されます。農薬の使用時にはすべての要因を考慮して、周囲の人、動物および環境の安全を決して損なわないようにしてください。**
6. **河川や飲料水源を絶対に汚染しないでください。**
7. **粉末状の農薬はできるかぎり使用しないでください。噴霧システムの耐用年数が短くなる可能性があります。**

スプリンクラ

1. **水和剤などの不溶性農薬を使わないでください。**
2. **スプリンクラは繊細な部品です。使用後、速やかに洗浄してください。**
3. **取り付け時に最小曲げ半径よりも狭いアークでホースを曲げないでください。これにより、折り目が付かないようにして噴霧効果が低減しないようにします。**

噴霧タンク

1. **噴霧タンクを取り付ける際には、スレッドロッカーを塗布してください。飛行前に、スレッドロッカーが乾いて、固まっているか確認します。**
2. **噴霧タンクの内部負荷が 10kg を超えないようにしてください。**
3. **噴霧タンク上部のバッテリー重量が 4kg を超えないようにしてください。**

レーダー地形フォローシステム

注 記

1. レーダー地形フォローシステムは、動作範囲内の植生から一定の距離（1.5 ～ 3.5m）を維持します。
2. 機体のピッチ角とロール角は 20 度を超えてはいけません。
3. 植生からの機体の距離を常時監視してください。
4. 以下の状況では、特に注意して操作してください。
   a. 傾斜地を飛行する場合（傾斜度は機体の速度により異なる）。推奨最大傾斜度は 1m/s 時に 15 度、3m/s 時に 6 度、5m/s 時に 3 度です。
5. 現地の無線通信法規制を順守してください。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

データ保護モジュール

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **バッテリー交換時に 30 秒間、データ保護モジュールが現在の操作データを保存し、電源を投入後、現在の操作を再開できるようにします。機体ステータスインジケータが緑色に点灯して、データ保護モジュールが動作中であることを示します。**
2. **データ保護モジュールからモーターに電力を供給できません。**
3. **機体が操作ルートですでに記録された地点に戻った際には、特に注意してください。周辺に人やその他の障害物がある場合には、実行中の操作を中止してください。**

注 記

1. データ保護モジュールは、機体の電源投入時に毎回充電され、完全に充電されると約 30 秒間稼動します。
2. データ保護モジュールは、機体の電源が切断されるたびに放電されます。放電されると、機体ステータスインジケータが緑色に点灯します。

ファームウェア

⚠ 警告

子供や動物が重傷を負わないように、以下の規則を順守してください。

1. **ファームウェアのアップグレード、システムキャリブレーション、パラメータ設定の作業中は、安全確保のため、子供や動物を近づけないでください。**

注 記

1. 安全のため、常に最新のファームウェアに更新してください。
2. 必ず公式の DJI ファームウェアをお使いください。
3. 機体のファームウェアを更新した後は、必ず送信機のファームウェアを最新バージョンに更新してください。
4. 更新後、送信機と機体とのリンクが切れる場合があります。その場合、送信機と機体を再リンクします。
5. ファームウェアを更新する前に、接続をすべてチェックし、モーターからプロペラを取り外してください。
6. ファームウェアをアップグレードした後、マイクロ USB ケーブルを取り外して、機体の電源を切断します。データ保護モジュールが完全に放電されるまで待ってから（機体ステータスインジケータが消えます）、機体の電源を再度投入します。

DJI MG アプリ

注 記

1. DJI MG アプリを起動する前に、送信機を完全に充電しておきます。
2. 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を事前に確認しておいてください。ユーザーには、関連規制をすべて認識のうえ、これを順守して飛行する責任があります。
   a. 自動離陸および自動着陸機能の使用
   b. デフォルトの制限を超える高度の設定

© 2017 DJI All Rights Reserved.

3. アプリにアラートが表示された場合は、機体をただちに着陸させてください。
4. アプリに表示される機体ステータスリストで必ず警告メッセージをすべて確認してから、フライトしてください。
5. インターネットに接続して、飛行地域の地図データをキャッシュしてから、フライトしてください。
6. このアプリは、操作をアシストするために設計されています。アプリに頼りすぎず、ご自身の裁量に基づいて機体を制御してください

USB スティック

注 記

1. DJI MG アプリの製品機能には USB スティックおよび SIM カードが必要なものがあります。これらの追加費用についてはユーザーが負担する必要があります。
2. DJI 認定の USB スティックを使用してください。
3. USB スティックおよび SIM カードは、それぞれのマニュアルに従って使用してください。
4. DJI は、サードパーティ製 USB スティックと SIM カードに起因するユーザーデータの損失または機体の不具合により発生した事故について一切の責任を負いません。
5. ユーザーは、公式の DJI チャネルで入手可能な互換性のある SIM カードのリストから選択できます。
6. USB スティックおよび SIM カードが適切に取り付けられていることを確認してください。適切に取り付けられていないと、関連する機能が利用できなくなります。

本製品の手入れ

保管と輸送

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **ケーブルやストラップなどの小さい部品を飲み込むと危険です。部品はすべて、子供や動物の手の届かない場所に保管してください。**
2. **運搬時には、機体からバッテリーを必ず取り外してください。**
3. **運搬中、または使用しないときには、ランディングギアが損傷しないよう、噴霧タンクを取り外すか、空にしてください。**

メンテナンスと保管

⚠ 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **噴霧後、機体の全部品を速やかに洗浄してください。**
   a. **噴霧タンクいっぱいに上水を充填し、タンクが空になるまでノズルから水を噴霧します。これを 2 回以上繰り返します。**
   b. **噴霧タンクのストレーナ、ノズルストレーナを取り外し、機体からノズルを取り外します。取り外した部品を洗浄して、上水に 12 時間浸しておきます。**
   c. **水を充填した噴霧ウォッシャーを使って、機体を洗浄し、柔らかいブラシか湿った布で機体を拭いてから、乾いた布で水垢をふき取ります。大量の水を機体にかけないでください。**
   d. **洗浄した機体を乾燥した環境に保管します。**

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

2. **100 回または 20 時間以上飛行するごとに、機体を点検してください。**
   a. **プロペラを点検して、摩耗があれば交換します。**
   b. **プロペラが緩んでいないか、確認します。必要があれば、プロペラとプロペラワッシャーを交換します。**
   c. **プラスチック部品やゴム部品が老朽化していないか確認します。**
   d. **ノズルの噴霧に異常はないか確認します。ノズルを丁寧に洗浄して、必要があれば交換します。**
   e. **ノズルストレーナと噴霧タンクストレーナを交換します。**
3. **50 ～ 100 時間（飛行環境により異なります）ほど飛行したら、インテークベントを掃除して内部のエアフィルターを交換してください。少なくとも 1 年に 1 回はフィルターを交換してください。**
4. **自分で機体の修理をしないでください。部品に損傷があれば、DJI サポートか DJI 正規販売店までご連絡ください。**

注 記

1. 墜落や激しい衝撃を受けた場合は、機体の各部を確認してください。問題や不明点がある場合は、DJI 正規販売店にご連絡ください。

フライトの必須条件

気象条件と周辺環境

⚠ 警告

機体は、穏やかな気象条件で正常に動作するように設計されています。衝突、重傷、財産の損害、健康被害を避けるため、以下の規則を守ってください。

1. **豪雨（12 時間雨量が 25mm/0.98 インチを超える場合）、強風（17mph（28 kph）超）、霧、雪、雷、竜巻、台風などの悪天候時に機体を使用しないでください。**
2. **フライト時には、機体を障害物、人、動物、建造物、公共インフラ、水域から 10m 以上離してください。機体の高度が上昇するのに合わせて、上述の物体や障害物からさらに遠く離してください。**
3. **屋内で機体の部品を操作しないでください。**
4. **付近の住民の健康被害を防止するため、風速 8m/s を超える場合には、機体を操作しないでください。**

注 記

1. 機体やバッテリーの性能は、空気密度や気温などの環境要因に左右されます。
   a）海抜 2,000m より高い環境で飛行させるときは、バッテリーと機体の性能が落ちる可能性があるので、細心の注意を払ってください。
2. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体を使用しないでください。

フライトコントローラーおよび通信との干渉

注 記

1. 障害物のない開けた場所で行させてください。高層ビル、鉄骨の建物、山、岩または森林は搭載されているコンパスや GPS システムの精度に影響を及ぼし、GPS と送信機の信号をブロックする可能性があります。
2. 送信機と同じ周波数帯を利用する無線機器は使用しないでください。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

3. レーダー地形フォローシステムとの干渉を避けるため、マイクロ波を使う機器の電源を切ってください（駐車センサー、自動車のレーダー探知機など）。
4. 伝送干渉を避けるため、同一エリア内で操作するのは 3 機までにしてください。
5. 磁性干渉や無線干渉のある地域周辺（高圧線、大規模な発電所、携帯電話基地局、放送塔など）で飛行すると、GPS、コンパス、送信機またはビデオ伝送エラーが発生する可能性があります。過度な干渉がある地域では、機体が異常な挙動をしたり、制御できなくなったりすることがあります。

責任ある機体操作

⚠ 警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. **飲酒、服薬、麻酔などの影響はないか、めまい、疲労、吐き気などの症状がないか、あるいは身体的、精神的に、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。**
2. **飛行中にモーターを緊急停止しないでください。ただし、緊急停止することで破損やけがのリスクを低減できるような緊急の場合を除きます。**
3. **着陸したら、まず機体の電源をオフにし、次に送信機のスイッチをオフにしてください。**
4. **機体を落下、打ち上げ、発射したり、危険な積荷を積載したり、建物、人、動物に向けて操作しないでください。これにより、人的傷害や物的損害が生じるおそれがあります。**

注 記

1. 操縦者が十分に操縦に熟達しており、緊急事態や事故発生時への対応策があることを確認してください。
2. 飛行計画が策定されており、無謀な飛行でないことを確認してください。
3. 本製品を違法な目的や不適切な目的（スパイ行為、軍事作戦、不正捜査など）のために使用しないでください。
4. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫など、他人の法的権利（プライバシー権やパブリシティ権など）を侵害する行為に使用しないでください。
5. 他人の私有地に侵入しないでください。

フライトモード、操作モード、機能および注意事項

フライトモード

⚠ 警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. **このモードでの機体の挙動を完全に理解していないかぎり、A モードを使わないでください。**
2. **操作ルートの付近から障害物をよけてください。視野内に機体を捉えておき、常にステータスを監視してください。**

注 記

P モードまたは F モードが最も安全で好適なフライトモードです。一部の安全機能では A モードは無効になっています。各モードの機体の挙動を完全に理解していないかぎり、使用すべきではないからです。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

1. P モード（ポジショニング）：機体の位置決めには GPS を使用します。
2. A モード（姿勢）：位置決めに GPS は使用されず、機体は気圧計のみを使用して高度を維持します。
3. F モード（機能）：GPS 信号が強いと、アプリで飛行ルートを計画した後、機体は自動的に作動します。

GPS 支援を無効にするフライトモード（A モード）に切り替える場合、それによって生じる自分自身の責任を慎重に考慮してください。

操作モード

⚠ 警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. **使用前に、各操作モードにおける機体の挙動を完全に理解しておいてください。**
2. **操作ルートの付近から障害物をよけてください。視野内に機体を捉えておき、常にステータスを監視してください。**
3. **P モードで操作し、GPS 信号が強い場合のみ、スマート操作モードで操作してください。**

フェイルセーフ と Return-to-Home ※

注 記

1. GPS 信号が不十分な場合、または GPS が有効ではない場合、Return-to-Home 機能は機能しません。
2. 機体の高度が 15 メートルを超え、プリセットされた RTH 高度に達するまでの間にスロットルスティックを動かすと、機体は上昇を停止し、速やかにホームポイントに戻ります。
3. 高層ビルは、Return-to-Home に悪影響を及ぼすことがあります。ホームに戻るまでに障害物を避けられるよう、機体の位置、高度および速度を調整してください。
4. 機体は常に送信機の伝送域内で飛行させてください。
5. Return-to-Home は天候、環境、周辺の磁場の影響を受けることがあるため、緊急時のみ使用してください。
6. 機体はフェイルセーフ Return-to-Home 中に障害物を避けることができないため、各フライト前に適切なフェイルセーフ高度を設定することが重要です。

※「Return-to-Home」は（一社）農林水産航空協会の指針により作業中には使用できません。

低バッテリー

注 記

1. 重大なバッテリー低レベル警告が起動して機体が自動的に降下する場合も、スロットルを押し上げて機体の高度を維持して、より適切な着陸地点へ機体を誘導することができます。
2. バッテリーに関する警告が発信された場合には、機体をホームポイントに速やかに戻すか、着陸させてください。そうしないと、フライト中に電池切れになり、機体の損傷、物的損害、動物や人への傷害が発生するおそれがあります。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

タンクの液体切れ

注 記

1. 噴霧タンクが空になると DJI MG アプリにその情報が表示されます。機体は操作モードとフライトモードに応じて次のように移動します。3m* 上昇してホバリングするか（スマート操作モードまたはマニュアルプアラス操作モード）、その場でホバリングします（マニュアル操作モードまたは F モード）。操作モードの詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。

* 3m でホバリングする機能は DJI MG アプリで有効にする必要があります。有効でない場合、噴霧タンクが空になった時点で、機体はその場でホバリングします。

規制順守と飛行禁止区域

規制

⚠ 警告

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. **農業以外の用途に機体を改造したり、使用しないでください。**
2. **高度に関係なく、有人の航空機周辺で操作しないでください。（必要であれば、速やかに着陸させてください）**
3. **都市部、スポーツイベント、展示会、公演など、多くの人が集まる地域では飛行させないでください。**
4. **認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。有人の航空機の航路から十分な距離を保ち、運行を妨げないでください。常に他の航空機や障害物に注意して、回避してください。**

注 意

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 現地法および規制で指定された飛行禁止区域の周辺やゾーン内を飛行しないでください。飛行禁止区域には、空港、2 つの主権国または地域の国境、大都市／地域間の境界などがあり、常に更新されています。
2. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。
3. 常に機体を視界内に捉え、必要であれば、立会者に支援を要請します。
4. 違法または危険な物品／貨物の運搬に機体を使用しないでください。

注 記

1. 実施するフライトの内容／種類（レクリエーション、公共利用、商業的使用など）を理解して、関係所管庁から飛行に関連する承認と認可を受けていることを確認してから、フライトしてください。包括的な定義と個別の要件については、現地の規制当局にお問い合わせください。米国で機体を操作する場合は、まず http://www.knowbeforeyoufly.org/ にアクセスして、状況に合う最も適切な措置を講じてください。
2. 特定の国と地域では、リモート制御の航空機を使った商業活動を禁止している場合がありますので、ご注意ください。実際の規則が本書の記載と異なることがあるため、フライト前に現地の法規制や条例をすべて確認し、これに従ってください。
3. 発電所、水処理施設、矯正施設、交通量の多い道路、政府施設、軍事用ゾーンなど、慎重な対処が求められる基幹施設や敷地周辺を飛行しないでください。

 © 2017 DJI All Rights Reserved.

飛行禁止区域

注 記

DJI は常にフライト中の安全を重視しており、ユーザーが現地規則と規制を順守して飛行できるよう、さまざまな補助ツールを開発しています。当社は、ファームウェアを最新バージョンに更新して、以下の機能がすべて更新されていることを必ず確認してください。

飛行禁止区域

1. 飛行禁止区域には、世界各地の主要な空港、2 つの主権国間の国境または地域間の境界、主要都市／地域間の境界線などがありますが、これに限定されません。
2. 飛行禁止区域の一覧は、http://www.dji.com/flysafe/no-fly に掲載されていますが、最新の規制要件に応じて、事前の予告なく定期的に更新されます。飛行計画は安全を確保するために重要です。航空管制、公安、その他の法務部と協議して、地域の飛行禁止区域を確認してください。
3. 一部の飛行禁止区域は、複数のゾーンで構成されています。各ゾーンは、さまざまな大きさの円で示されます。機体は飛行禁止区域の最も内側のゾーンでは離陸が禁止されており、最も内側のゾーンの境界部に向かうほど、指定高度まで降下させます。

高度制限

1. 地面より 50m ほどの高度を飛行して、周辺の障害物からの距離を保ちます。
2. デフォルトの高度制限を超えて飛行しようとすると、新しい高度制限を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。

© 2017 DJI All Rights Reserved.

DJI サポート
http://www.dji.com/support

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。
http://www.dji.com/mg-1s

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending an email to **DocSupport@dji.com**.

AGRAS は DJI の商標です。
Copyright © 2017 DJI All Rights Reserved.

Printed in China.

YC.BZ.S01517.01